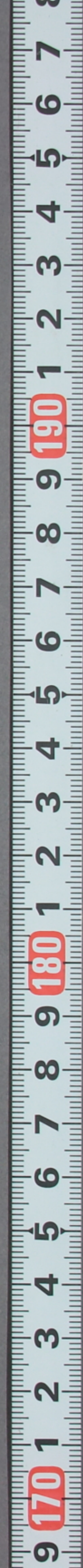


百之肝家抄
一

特別
イ 4
3163
106(1)



貴
14
3163
10661



堀川百首肝要抄卷之上

号太郎百首

細川幽齋秘説

貞徳記之

権大納言公實

○才一 あま日くれ

残言 ちえ残るあま日くれ乃自雲ハ古^コ逢^ヅは^ミを^ムぬ^ハ利^ノあ
ふきのぢりたる日此^カ新^タハ。を^ムゆ^ハや^ハす^ハよ^ハと^リて。
ふ海^ノた^リを^ム物^也。朝日ハ^トこ^トに^セせ^タ。若^ク本^キよ^ハは^ハ
られ^ク。新^タ乃^ハ片^ハぬ^ハ。西^ノ此^カあ^ハある^ハ。新^タ日^ハく
ま^ハし^ハ。夕^ノ日^ハくれ^ハ是^ハよ^ハむ^ハ。い^ハは^ハま^ハも^ハま^ハさ
し^ハ。衣^ノなり^ハ丸^ハ男^ハへ^ハ。

○才二 袖よれ

卯

卯五神ノておれぬぬき想ノ自彼ハ卯花ハはきるるふねなわらる

○卯三 せとらハ神ガ下ヘはぐるを神ノててハワラ

照

五月山嶺ヤミと志ウと心せんとモし神セととみガれりるを

六月山折ハは乃名ハふ之。夏山ナツは火とととシてを

だ。うラかりよハ鹿の目ハ神ノとととシてをみガれりるを

と利カ持リ人ノ神ノ射イとととシてを照トモ射レとととシてを

いゆ也。貫ハ之ハ神ノ新ハ

六月山木ハ神ノ下ヘをみハふとととシて火ハ鹿ノ立トの志

へハぬまハの。是ハ此ノ神ノ中ノあハなるべし。とととシて

あハとせハるものハとととシてみハえハり。又ハせハふとととシて

阿ハの。せハハ男ノ也ハれハ神ノべし。せハこハおハがつるハな

落

○卯四 うハはハ乃ハあ

秋ハ月ノよりハむハむハあハあるハ費ハバハうハはハしハしハあハらハよハはハぐハふ

宗ハ祇ハ云ハうハしハしハあハとハ男ハ女ハ一ハ滴ハ乃ハあハ也。胎ハ之ハのハ志

かハのハごハとハくハたハるハよハ落ハ乃ハ秋ハ月ノよハちハむハはハうハはハしハ

此ハあハたハのハ。此ハハハとハよハまハどハふハとハよハむハをハ吃

○卯五 うハはハをハてハく

秋ハのハうハはハ下ヘ系ハをハ全ハとハよハむハ虫ハらハうハれハをハてハくハ秋ハやハあハしハま

うハがハれハをハてハくハハハれハをハてハくハなハりハ又ハうハがハれハて

りハとハきハるハ本ハ阿ハのハはハをハあハるハべし

○卯六 ちハをハしハきハぬハるハ物ハ時ハ毎

みハづハあハるハ秋ハをハ山ハ此ハをハやハらハるハんハをハ全ハしハきハぬハるハ物ハ時ハ毎

ちハをハ全ハしハきハぬハるハハハあハのハ志ハとハのハ小ハ網ハをハ別ハれハやハく

時

あり志くな利。何れ吹くもこのつを先よく吹率也。
但ちを登しきこも早な利。一文字を登るも字あり
この相成あれを。そのあつをハ登しつふねることそ
かべられ。是ハ一を登くあり志ける時雨なるへし。
いやあり志きるとある本れべく傳れど。や一き
ふねるとかきる本れなれど。このぐひたがく先恒し
傳進たぐもつ此二況未定く詞ハ本あふと利用
べう。次他准之

○オ七 タニ利

タニ利此はつれ書する冬此東ハ鴨乃上毛もいよは控らん
タニ利此はつれ書する冬此東ハ鴨乃上毛もいよは控らん
べー。いふれをまごころたのつらよ候たり

○オ八 こはりの道

ゆすたつこはりの道とあとしてて雪ありよは利衣をせ履
ます。おろらすとひひききするを利。こはりのハちのさふ
坂也。かち山乃あり利よありべー。名ふハありきい
はくもても後べー。なまのめはくお候もふれど
さす。控へく。く。空へて。ぬが耳にも物もよい
をける。登し。か面ら此利を。利出く。地音をを
もむ。よまき。え。悟此。このに是。成。志。る。次

○オ九 志られあ

霜のれ乃雪辺此は利乃志られ。意。控。さ。う。ふ。駒。も。す。は。め。の。利。あ
志。られ。る。意。な。利。を。意。此。歌。を。と。り。ま。て。あ。一。と。斗
續。む。あ。ハ。か。ち。れ。あ。一。ハ。志。不。ら。一。く。や。持。り。ん

なく持ちくとうち出すを若れみまうといひ。
うぬうよふありてあるまふを長れみまうとす。
りりれを海を利とす利ハな一を新よの利と
用がよふ也。ばぬりてふたごをめぐりて分れど
名通れす人給つる利あるを少を握持べうす

○才十六 洗ふすえれ

星系

箱根山うす紫れはすえれ二一か三一かすれそのまむ
莖葉法穀と利てハかぬう法本すを去くぬを漬が
しり地物也

○才十七 麦の利はかぬの垣也

星系

麦の利乃ちかぬの垣也。此花ハるは布をけりすを利とす
交り利ハ交新を利がむむ一といぬまを交りて

それを緒よとてぬれふをるる利。草と事
也。攝あをれ生の浦とハ伊勢法名ふ之。それをあ
されと法と巻と利。是ハ麦かるかすりて法乃
生つる垣根と法とけいぬる利也。名ふハあす

○才十八 洗くまの阿やめ

葛蒲

五月雨ハ宿よはく海はあやめ草乃ち紫よかれと巻たを抽
是ハを江に洗く月江乃あやめを利。それを引来て
宿よはくを杉ひ付る一と秀向よ法と巻と利。
葛蒲とむり利ハふたをてよみあくかすん時法
くまはあやめと少色えく録給べ一

○才十九 扱ふ也

子益とる深田よぼす扱ふ也。此扱ふと利事法はをさす

田十卷

本草上

萩

○才廿三 廉比志くろく

川あり廉比志くろくをかきて今浮てなれぬ秋藤比志くろくは
 新名ありとハ知なきくろく儀をとくも昔人コトナレな
 利是ハ古今集よ 秋くろくを志くろくをかきてた
 廉比めよハくろくえすて書比くろくや書くろくといハ新を
 中くろくありせあり。もせも別志くろくがくもハ川くろくあり物な
 別くろくなぐぬ秋比くろく枝を別廉比志くろくくもよとめて
 るたあり廉ハ書くろくをよと書くろくあれ川中くろくハ廉比志くろく
 らとく書くろくハあり一くろく事くろくを別と。そこをくろく
 てとめてらくろくや。比くろく敷くろくたよ秋比くろくくもよ。情コトナレハ新を
 えて先くろくと寸くろくハありくろくなりや

○才廿四 川くろくを志くろく

47

駒ウマ

駒ウマとて廉比くろく書くろくへを尋ねれも小義くろくよすくろくハ別志くろくハ
 出くろくとらくろく敷くろくして大方くろくたくろくら松出くろく飲出くろくたくろくも出
 たくろくもせくろくくくろくハいくろくと漬くろくべくろく。そりくろくくくろく寸くろくとくろくもよみ
 くるくろくハかくろくくくろく寸くろくゆれくろくもそくろくもくろく蓋キルメと別くろくよ出くろく題くろくあ
 る物くろくなれくろくはくろくのくろくハくろくもくろくむくろくべくろくくくろく寸くろくハくろくもくろくむくろくとくろくな
 るくろくもくろくむくろくとくろくるくろくめくろくくくろくらくろくねくろくまくろく一くろく切くろくよくろく二くろく交くろくハくろくの
 川くろくを志くろくくくろくとくろくもくろく見くろくへくろく。九月イハハくろくとくろくなくろくはくろくは
 うくろくのくろくやくろくうくろくよくろく駒鞍ウマなくろくのくろくもくろく別くろくあるくろく事くろくをくろく求くろくめくろくか
 べくろく。比くろくありくろく右くろく新くろくよくろく詮センとくろく別くろくありくろくるくろく秀くろくの
 級くろく比くろく初くろくたくろくとくろくありくろくくくろく特テせくろくすくろくてくろくもくろくん
 ハくろく右くろくのくろく比くろく志くろくをくろく盗ヌスよくろくふくろくありくろくはくろく比くろく此くろく道くろくハくろく才くろく一くろく比
 小くろく特くろくなり

○才三十 柴車

柴車からくるまうよあー引乃山此るる残をよーる式
 常此車にはあしす。多々柴と格入はりてくるより不
 るとこころはくすを中しや。柴はみ車と八替カレたなり
 又此後大なる本此枝とてつてこまよ多枝スクと此
 せて炭ミチ利おしすを云也

○才一 むす金はくし

お板此開乃せまともあおてこまよむすやはくむれ終ミチと格也
 せうハ法園ツキマの利神調物を此不する馬よハ能を付
 けり。こまよのしるるあくよるやを立しりあまる金此
 目ツキと驛長ムヤノヲサとなりく驛路キリ鈴交スラハニル夜過山ミタ詩
 もけこま利

○才二 吹巻

お板此開乃せまともあおてこまよむすやはくむれ終ミチと格也
 是ハ海路カイロ此此也。よあり。船といり字ハたをきれと
 全并ゼンタイ并此りこ也。大鳴り利吹凡と淡路アハヂ鳴り利
 物モノの凡と面くたれを吹巻と云たなり。はるるをよ
 そらと格あらしり。こまよみれふかよるをよ
 難儀なる并路此あつと由をともあり。法性寺殿の
 此のあり。和田此系らふ出てらねる久望の雲舟
 あり。よ真津マヅきりたのみと船乃きみえぬを末
 代前此をりんよす人百一人一首よ定夜に此りせ
 終るるらハ船といねたなくもる。こまよをよま事よ
 あしすとい達此をし。たなり。是悟此りこまよられ

とれす

○才女三 かきゆり

曉たかりしとくはえぬ林も此嘉赤りし袖袖ありしと
はへぬたぬハとらんぬ也袖ありしとくは袖ありしと
とらんぬ。裏もふ袖をうきして笠よする幸へ。但凡
振なるべし凡振とハ凡た振舞なる也

権中納言源國信

○才女四 ちりや

いしうをこの里の幸とらんちりや此髪ハとく屋と
初郭公初言強なる初といくはと利男べし

○才女五 喜れとくす

春は喜とくあつたよあせをけるらひはとくす

祇云喜れとくすといはとくすはとくす
根とくちて綾をくハ食するものやぬりハ一
二末たるとくす

○才女六 喜れせよ

花より名をくひもた兒杜もをるれせよとくす
朗詠よ笛春不用関城固とある詩よりあある初
也

○才女七 田子れて海

善ぬをきぬうをてとよふる田子れて海らん幸とくす
田とくふる者よまふるちんをえとせんをぬりも事
小とくす

○才女八 なるちり

なつ川はなをー花きもちを此うはつらうはなをぬん此名を遠く
なつ川とよハなれず川毎々事なるあり

○才四九 あつ梅文

あつ川は宿のまらふからいりて照す雲の孫やまのつれす
蒸りして梅文なる花なるあつ川やあつ川やあつ川

○才四十 ひらけ

逢坂乃用此村枚葉とてきこぬるまをひく重月此の
村枚すまひひらけなるあり。あつ川は利て吟ト
べらよ結お不持るを盡べなるあり

○才四十一 いこ山長井此うら

花梅くい梅此重月の雲りて長ぬ此浦よすある月
此うらよあるすべなる事ハなをきれども。かぬら此名示

を梅なりとつ合てよみたる中舞はうこもじもの
るよハ重宝と成ゆへ。然らざる海守

○才四十二 冬う梅

神無月もこの冬う梅をね物をと利をあらすもあつ川を
冬う梅へ冬こも利とあつ川なるあり。ふよのうらと
男をー冬う梅へとハ冬こも利此利をさとする利

○才四十三 すりふ

四阿乃志川此すうふ此下をてとていふもさあつ川なるあり
すぐふハ作して板を此代よ床此下をかくたあり。
貧家此神なるあり。又一説とていふとハなをて志川を
あつ川

○才四十四 河と

と我きと川セイ此処あるとねま浅あき洲しゅう此のせびそり川らふ
河と八川此に在り。門のま。戸此ま。いはねをこれさう
く。又一本川とくをし。能い本ほん為なぬべー

○才四十八 見れてもあふ此

多まの此すくけけらす少すくなれてもよふ此くはくきくなるる

すづくハあつまわつるあ利あなれてハももをくあ

○才四十六 日次此川

吹ふくす此良ら此押おくまハさきくも日次此にあせてやまあやん

鷹タカ持ガリ此こ也也江江別別此良らとりのまふ。日次此に此こ

ハ毎日此に脚しやく此料りょうよ禁きん中ちゆうへをよする島しまをりな
利り。鷹鷹持持此此題だいとえささくも此こ本ほん前まへをわ月つきへー

○才四十七 水引此あはせりい

水引此あはせり系けい此一いちすらよよをさす能なををねとゆも

ねもゆとりの一いち子こ題だい此こ也也水引バあよはきさ

るいいと志しとて用もちるをり也也引ひのまよひるべー

○才四十八 水引の橋

赤あか板いた板いた板いたすく橋はしよかりまねる人ひと此こをいふも

板いた板いた板いたりりめつめつとと和わ也也秀ひで白しろたたままふふして

用もちらるべー

○才四十九 志まふ

波なみ此このりりとと橋はしをを渡わたるるよりよりややままふふととせせ志しままふふののまま

志しままふふハハ凡たゞ此このの也也志しままふふするするここひひてて吹ふくくののまま

わわりり。いいつつららのの時ときハハ志し摩ま圓えん此こののまま也也

○才五十 ぬりたるり

立ちつり、約北極よりふたどあつて、いふ多う利し、大橋ねうや
あつたり、利、妙傳も、さき、此、新、旅、急、なり、いふ、さう
り、とは、そ、ち、う、なる、お、道具、と、い、え、て、そ、ち、あつ神、を
志、ら、ず、し、も、ら、う、さ、よ、み、く、難、なる、を、い、

○才五十一 みる利子れまたる守火

みと利子れあそぬすまひよまも守火れあつて、あつた
是ハ、無、常、れ、さ、さ、さ、さ、り、れ、火、も、さ、さ、さ、さ、り、
一、も、り、ひ、く、あ、さ、び、よ、す、る、が、み、も、れ、火、の、キハ徳、を
す、ま、よ、人、の、命、を、い、ぬ、る、な、り、も、さ、さ、さ、さ、り、
て、ま、よ、ま、ん、無、常、れ、さ、さ、り、て、ハ、作、と、ぬ、す、り、よ、な、り、

右兵衛督源師頼

○才五十二 トヨロヒ

サ、レ、一、世、か、ま、り、を、う、ふ、く、に、ま、れ、い、ま、も、え、あ、つ、ト、ヨ、ロ、ヒ
い、ふ、ま、の、木、或、ハ、山、或、ハ、岩、な、り、れ、法、よ、ま、さ、り、
と、は、り、く、ま、よ、う、ち、い、ふ、て、ト、ヨ、ロ、ヒ、と、ハ、い、ふ、に、
い、人、傳、る、時、は、中、新、を、い、べ、ト、下、り、え、ト、を、い、ト
い、葉、ら、れ、よ、お、ふ、一、。飛、た、ち、ま、り、り、ま、り、ま、り、
利、あつ、さ、よ、ハ、さ、ま、ま、本、れ、あ、る、也、下、草、を、森、林
山、岩、な、り、と、い、く、し、て、ま、ま、ん、ハ、い、ふ、と、れ、い、は、り、
い、葉、松、竹、れ、下、お、れ、ハ、も、本、れ、枝、ま、り、よ、あ、る、い、
よ、別、ふ、い、ふ、れ、也、な、り、て、も、さ、さ、り、ト、ヨ、ロ、ヒ、
ま、ま、な、り、ハ、ま、ま、い、ま、り、い、ふ、い、ふ、り、と、利、也、の、カガ法、よ
い、ら、ん、あ、れ、ハ、お、い、ふ、ち、て、ま、ま、法、な、り、

○才五十三 ころれの書

あゝ吹これの香を歩つていふ今日然ぬるやけよ此中山
これハふがらまき成べし。申略の初

○才五十四 勝まらる

山里ハねえり本村さひしきふくすきなるハ勝まらるる
能^{ノキ}枕^{マクラ}りて能^{ノキ}枕^{マクラ}者らうくさるる枕也。彼^{ノキ}乃^{ノキ}くは同

修理太夫藤原顯季

○才五十五 志めき次

稚子啼いたる此少きうは不墓志めき守らうり成よまふ
志めきすはくのをしりし志めきなるを引迫し。我^ニ亦^ニ分
こ^レ外^ニなる事也。右田此少きハ山城よあり。稚^キ不^ス墓^ス
の墓をうへん時ハ此^ノ中^ニを^シ用^スべし

○才五十六 ままをこせらる

